

平成 24 年 8 月 8 日

株主・投資家の皆様へ

フィンテック グローバル株式会社
代表取締役社長 玉井 信光

第 18 期第 3 四半期の概況につきご報告申し上げます。

現状の業績の進捗自体は不甲斐ないものではございますが、総論的・基礎的には当社の事業状況は上半期同様「悪くない」と判断しております。

業績の進捗が遅れております主な理由は二つであると考えております。

まず一つ目は、各分野において大型の案件を複数取り組んでおりますが、これらが未だ数字として計上できていない点です。一例として既投資先の株式売却を具体的に進めておりますが当該企業の業績が来期大きく上ぶれる可能性もある為、更なる企業価値向上後に売却するという方策も選択肢の一つとして検討しております。この一例のように「決算期末」を強く意識せず、急がず、自然体で業務に取り組むほうが当社の企業価値向上に資するとの判断で動いております。

二つ目の理由は、アセットマネジメント分野・公共ファイナンス分野における営業利益の積み上げが不調である点です。アセットマネジメント分野においては年金基金に対する詐欺事件、いわゆる A I J 問題の影響で独立系運用会社である当社子会社も逆風下にあり大きな進展は望めない状況です。当面は収支均衡ラインを下げ縮小均衡させるべく、欧州債務危機による金融市場の混乱等によって運用が悪化し運用受託報酬が大幅な赤字となっていたグローバル・マクロ・ファンドとの投資一任契約を解除するなどの方策を採りました。公共分野に於きましては公会計コンサルという自治体様との入口・接触の業務分野では独占的な市場占有率を維持しており、再生エネルギーを中心とした投融资および付帯するアレンジメント機会等の引き合いルートとしては非常に役に立ってはおりますが、残念ながら業務そのものでは赤字が継続しております。来期に向けてシステムエンジニアリングなど一部業務を外部に委託するなどの効率化を現在推進中でございます。

総じて当社グループ全域において営業展開力は前期に比して大きく上向いていると感じます。かつて当社の主力アレンジメント商品であった「不動産開発型証券化」や「再生可能エネルギー関連のファイナンスアレンジメント」など同一クライアントからのリピートやシリーズ化した引き合いが期待できる大型の案件を受託でき始めております点は大きな安心感があります。近年の主力業務・主力収益源となっておりますプリンシパル投資部門がその他の周辺業務の不調を補填するといった、謂わば不安定な経営状況から、本来の主力事業であるファイナンスアレンジメントで通期経常的な収益を計上しつつ年間数件の投資エクジットというホームランで加点していく、という体質変換がうまく出来始めた、と感じております。

とはいえ、現在最終コーナーである 4Q の真っ最中でございます。役職員一同任務遂行に鋭意邁進しております。引き続き皆様の暖かいご支援を賜りたくよろしく願いいたします。